

令和元年度 第2回 市長と語る車座ミーティング（意見交換概要）

【開催日時】 令和元年 10月7日（月）午後7時～午後8時30分

【開催場所】 中央公民館 学習室5

【申込団体】 NET'S、東御市農業青年クラブ、東御市商工会青年部、MOVE！103会
東御市消防団

【参加者数】 18名（市長、市職員を除く。）

【懇談テーマ】 働く若者の声を市政に伝える

※議事については、主な内容を抜粋して掲載しております。

個人のプライバシーに関する部分などについては、一部内容を割愛しております。また、意見交換の内容は開催日時点のものであり、現在の状況と異なる場合がありますことを、あらかじめご了承ください。

【概要】

将来目指すべき「若者世代に魅力的なまち」の姿について頂いたご意見（※資料配布で頂いた意見も含む）

（東御市消防団）

お互いに居心地の良い距離感でつなげるコミュニティを作ればいいのではないかな。

（NET'S）

若い世代、次の世代だけでなく、上の世代の人たちも関わられるようなコミュニティを作っていければ、まちのためになるのでは。昔は近所のおじいちゃんおばあちゃんたちが自分の子供達や近所の人を面倒を見たように、昔の姿に戻るようなまちづくりができればと思う。

（NET'S）

地元に関心を持つきっかけをどれだけ作れるかが一番大事だと思う。一人一人が情報発信役となって東御市の情報を発信し、今どういうことをやっているのか、どんな人が東御市にいるのかを知ることがまちづくりのきっかけの一つになるのでは。

（MOVE！103会）

魅力的なまちは、自分らしく楽しく生活している人がたくさんいるまち。

・ コワーキングスペースで聞く若者の声

①現在の生活に大きな不満はないが、将来は不安（特に子育て世代）

→不安をやわらげる取組をもっとアプルーする必要がある。

②「好きな仕事ができない」「都会に比べて稼げない」「地域の人たちと馴染めるか心配」の三大不安を抱えている。

→テレワークの（情報提供）と地元とつなげるハブ機能を果たす。

- ・とうみレッツ号の更なる活用を提案

免許を返納しても便利な交通手段があるというのは強み。ただ現状は便利さのアピールが不十分で使う人が少ない。レッツ号で出かけると行った先に楽しみがあると思えるような乗車特典を用意する高齢者が出掛ける機会を増やし生きがいを創ることは健康長寿の効果も期待される

- ・“去る人”をなんとか留める政策ではなく、“戻る人”と“来る人”を大切にする政策を提案。

転入届を提出する人にあたたかく迎え入れてもらったと感じられるような試みを。

例：転入者が不安に思うことをリスト化し、届けを提出するときに担当係や担当者の連絡先を渡す。取り組みを PR するホームページの URL や冊子を渡す。

例：転入してすぐに戸惑うゴミの分別方法について説明し、ゴミ袋を全種類1枚づつプレゼントする。アプリで分別方法の確認や問い合わせが出来るようにする。移住予備軍のみなさんの目にとまるどころ、道の駅、観光施設、ゲストハウスなどに取り組みを PR する冊子を置く。

- ・コミュニテーマネージャーの育成を提案。

パッションあるコミュニティの存在は、地域の強みであり力になる。それをマネジメント出来る人財（政治・行政・民間をバランスよく知りフラットに情報発信しつなげる）をそこここに配置したらいかがか。

（東御市消防団）

農業をやっているが、一つのことをしっかり極めて、これをやってくんだという目標があってやっているといるところの方が、農産物を売ることにしても、また地域のエネルギーについても強いと感じている。

（東御市農業青年クラブ）

業種を超えた横のつながりを持てる機会があるといい。横のつながりから、こうやって盛り上げていこうよということができたらなと思う。

（東御市農業青年クラブ）

田舎に戻りたいと思っても、世帯をもっていると仕事や生活の環境を変えるというのがハードルが高い。来る人をどう迎えるか、サポートしていくかというのが一番大事なのでは。

（東御市消防団）

ももとは市外出身だが、東御市に来てから消防団に入ってから、縦や横のつながりができ、地域に密着できた。消防団の垣根を低くして、入りやすい環境にすれば地域に溶け込める環境になると思う。

高校を無償化してほしい。

常田の信号から田中の歩道橋の部分まで、ダンプカー等が抜け道として利用してお

り渋滞するため、小学生が通学する 7～8 時の間だけでも通行止めにするよう、スクールゾーンを設置してほしい。

ワインだけに補助金、助成金を使うだけでなく、他の産業にも助成金等があればいい。

(東御市商工会青年部)

望月町で「ツキ・ヒト満ちるプロジェクト」というものがあり、商工会に入っていない移住者の方たちが主に運営しているのが非常に集客がある。そういった方たちが、来やすく、住みやすく、自分で商売をしていきたいような環境を作っていくことにも力を入れてほしい。

高校生や中学生とも、こういった車座ミーティングをしてほしい。

(東御市消防団)

10 人がいれば 10 通りの考え方があるので、消防でも仕事でも意見をしっかり聞くというを大事にしている。所属している消防の部でも、みんなが出やすい環境は何かを考えているが、できる人は頑張っやり、他の人のをフォローもすると、大きな気持ちでやれば、消防もみんなが来やすい環境になるのではないかと思う。

スノーボードを一緒にする仲間は東京、埼玉の人が多いが、東御市の知名度が低い。実際に来てもらうと、すごくいいところだとみんな言ってくれるので、しっかりアピールしていけば、もっといろんな世代、いろんな人たちに来てもらえるのでは。

(東御市消防団)

東御市の訪問リハビリは遅れていると感じている。東御市の理想像として、子供から高齢者まで住みやすいまちが作れば良いと思う。

消火活動や行方不明者の捜索を行う消防団の活動は地域のためになっており、とても素晴らしいと思うが、操法の大会が大きな負担となっている。それを理由に幽霊部員になっている人や、消防団をやめたいと思っている団員がいることもわかってほしい。

(東御市消防団)

東御市は、上田や佐久等の大きな地域から移住してきた人が多く、土地が安いことや、通勤にいいといったメリットが優先で、将来的に東御市にずっと住んで子供を育て、後々は子供達も住み続けてほしいという考えにはならない人が多いのではないかと思う。さらに一歩進んで、子供達も同じように家を建て住み続けていくような魅力的な取り組みが必要ではないかと思う。

(東御市消防団)

企業誘致や補助金等により、ここで働く人を増やすということが若者増加につながっていくと思う。青木村では移住者に 100 万円の補助があり、多世代に対する補助等も頑張っているため、そういったところも手厚くし、まずは人口増加というのが目指すべき姿かと思う。

(東御市消防団)

市外で働いていたが、消防団で昔の仲間と会い、声をかけてもらい東御市で働くこと

になった。自分の場合はたまたま消防団だったが、昔一緒に遊んでいた仲間が離れてしまっているかもしれないので、出会う場所やきかけが必要なのかと思う。

休みの日にどこに子供を連れて行こうか考えたとき、晴れていれば中央公園等があるが、雨が降っているとどこに連れていこうか迷う。子供を連れて遊びに行けて、お父さん同士も話せるようなスペースが東御市にできればいいと思う。

中央公園の遊具が老朽化して使えなくなっているが、代わりのものが欲しい。今プールができ、東御市から出て行った子供たちが、日本を背負って立つような選手となった時、公園で遊んでいたことが基礎となり、ここで遊んでいたんだよと言ってもらえるような公園ができればいいと思う。

(東御市商工会青年部)

消防団にも所属しているが、消防を通じて年の離れた人とも知り合い、それから何十年という付き合いが出きるのは、すごくいい交流になっていると思う。

商工会の方では、若手後継者がいないという実情がある。帰ってきた人が就職できる環境があればいいと思う。

田中の商店街はこんないいものが売っているとアピールし、もっと元気な商店街になってほしいと思う。

市民祭りでは、例年 3000～4000 人くらいで連を作ってやっているが、もう少し人が来てもいいのかなと思う。特に祢津の方もちょうど色んなお祭りがあるが、もっと一杯参加してもらい、市民でもっと盛り上げられるような、お祭りができたらと思った。

東御市にはこれだけ自然があるが、今ものすごくキャンプが人気なので、市で予約が取れないくらい人気のあるキャンプ場ができたらと思う。

(市長)

キャンプ用品の会社も、世界最大級の店舗展開を始めたり、日本のキャンプブームを本物にしようとしている動きをしているので、キャンプというのはおもしろいなと思いました。

いろんな意見を聞いてなるほどなと思いましたが、申し訳ないですが、お金で勝負する話は、絶対東御市は勝てないと思って頂いた方がいいです。地域を特徴づけたりするのは地形だったり気候風土、人柄ということで勝負したり。

今日いろんなお話聞いて反省すべき点が多いなと思います。団塊の世代が 70 代に入り、自分たちが一人で生きて行くという時代に入ってきますので、その人たちが暮らせる社会をどう作っていくのかというのが大きな課題となっており、訪問リハビリが遅れているというのは誠に申し訳ないなと痛感する思いです

今、適度な人間関係、村八分で結構、全然困らないと思っている人が多いです。隣組に入ってくれないので、市で何とか入ってくれるように言ってくれないかといった意見も

ありますが、コミュニティというのはそういうものでは無いと思うんです。コミュニティは本当に必要なものなのかと考えたとき、災害が起きたときに必要になってくる。消防の皆さん方も、ポンプ操法がなぜ必要かっていうと、一つのスポーツ的な要素と、それによって身につけるものがあるという色んな理屈があるかもしれません。今、市は災害が起きた時に、それに対しみんなで助け合うといった決意をもったコミュニティを小学校単位に作りたいと思っております。

今の時代をよしとして再生産するための作業は必要だし、いいことは拡大再生産するべきだけど、新しいことをやろうとするときに、それを常識でだめだという人間が多いか、自分たちの時代ではばかげた行為かも知れないが、若い人がやりたいんだったら、やって経験することが何かを生むんじゃないかと応援できる地域になるか、というところで東御市が変わりつつあると思っています。

ワイナリーばかりという意見もよくわかります。ただこの地域の良さという中で取捨選択し、とりあえずこれを何年間か頑張ってみないとこの地域の特徴は出てこないと思います。10年前はワイナリーは1件しかなかったんですが、今10件目ができて塩尻に並びます。10年間で動くものもあったと思っています。

湯ノ丸に関しては、将来に向かう投資と、今の世代に寄り添う施策の両方が必要ですが、残念ながらお金がないため、将来にわたる投資については理解が得られないということもあり、寄附でやっております。

移住定住についてはいろんな施策を打ってますし、これからも打っていきますが、限界があると思います。移住定住に代わるものが何かというと、実はふるさと納税で、ふるさと納税をしてもらって住まなくても税金を払ってもらうのと同じ効果があります。例えば今年には既に2億になろうとしているんですが、3割分は経済波及効果として農家を中心に行っています。約1億ぐらいが湯ノ丸に使わせて頂くということで寄附を募っているんですが、その関係人口を増やすとか、首都圏に溜まっている巨大な企業の内部留保金を地方に持ってくるには、東御市のためにはお願いでは、なかなか寄附はしてくれない。でも、日本のために、オリンピック成功のために、日本のアスリートのために、寄附してくださいといえれば心が揺らぐ。湯ノ丸に関しては寄附で維持し、立ち上げるという決意の中で今動いてきております。いろんな意味で賛成反対ありますし、さっき話で10人10色で考えればばらだという話がありましたが、その通りだと思います。けども自分のやりたいことをこうだと公言して、だれか手伝ってくれないかということで実現する夢もあると思っています。

今日色々教えていただいたこと、市政の参考にさせていただきます。

みんなが手伝ってはくれないけども、何人かがお前の夢いいな俺も一緒にやろうかなという、そういう仲間があれば、いい仕事、いい仲間と出会うことができ、絶対に最後に死ぬときに、自分の人生が悪くなかったと思えると思います。

是非挑戦することをやめないで頂きたいと思っておりますし、怒られながらも挑戦しようと、

この年になっても思ってますので、どうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

【配布シートで別途頂いた御意見】

○若者世代に魅力的なまちの姿（状態）＜理想の姿＞

- ・仕事をしながら、働く場所や生活する場所を自由に選べる、選ばれる条件が整っている。
- ・ともに楽しめる、面白いと感じる人がたくさん住んでいる、知り合うことができる。
- ・消防団のポンプ操法、ラッパ操法の中止、その変わりになるものを作る。
- ・子育て世代が集まる居場所づくり

○若者世代に魅力的なまちの姿（状態）＜5年後＞

- ・塩尻よりも質の高いワインの名産とになるよう、もっとアピール。